

土佐自然派しっくい 白亜 **DIY 用**

100%自然素材の安心しっくい

施工マニュアル



ビニールクロス下地へのしっくい塗り 編

～ 施工前に準備するもの ～

ゴム手袋・保護メガネ・保護マスク

漆喰の主原料である消石灰は強アルカリ性なので、水練り状態のしっくいが直接皮膚に触れると肌が荒れることがあります。(固まった後は触れても大丈夫です)

左官コテ・コテ板

下塗り材や漆喰を塗る際に使用します。



柄杓(ひしゃく)・お玉

下塗り材や漆喰をコテ板に載せる際に使用します。



マスキング・マスカーテープ

漆喰が付着しないように柱や枠、床面など漆喰に接する部分の養生として使用します。



ジョイントテープ

ビニールクロスの継ぎ目(ジョイント)に貼り、浮きや剥がれを防ぎます。



刷毛(ハケ) 大・小

漆喰を塗った後、柱や枠と接する部分(チリ隙)を整える時などに使用します。



その他

バケツ・ブルーシート・脚立・カッター
雑巾・掃除道具など

※上記のものはホームセンターでご購入頂けます。
上記の道具以外にも、適宜必要なものをご準備下さい。

ビニールクロス下地へのしっくい塗り 編

1. 下地の清掃・養生

最初に、ホウキで壁や天井のホコリを取り、漆喰を塗る面を綺麗な状態にします。

1-1

ビニールクロスの上に施工していくので、ビニールクロスがしっかり下地に付いていない部分はカッターで切り取り、壁から剥がれている箇所をなくします。



ビニールクロスの補修



汚れを拭きとります

※ビニールクロスは出来るだけ全て剥がし、裏紙も全て剥がす事をお薦めしていますが、裏紙まできれいに剥がす事は大変な作業なので、しっかりと下地に接着し汚れ等もあまりない状態であれば、そのまま施工します。古いビニールクロスの場合、汚れの影響で漆喰表面にアクが出てくる事がありますので、アクが懸念される場合は市販のアク止め材（株）ハネダ化学 ハイポリックシーラーなど）を全面に塗布して下さい。

注意事項：アク止め材は合成樹脂が配合されていますので、シックハウス症候群や化学物質過敏症の方は使用しないでください。対処方法は弊社までお問合せください。

1-2

柱や窓枠などの壁と接する部分（ちり隙）に、漆喰が付かないよう下地から2~3mm程空けてマスキングテープを貼ります。（下塗り材+漆喰の塗り厚が2.5mm程度の為）漆喰が木部に触れると変色する恐れがある為、それを防ぐ目的もあります。



マスキングとマスキングテープ



マスキングテープを貼ります

漆喰等が付着して汚れないように、床部分やエアコン等にはビニール付きのマスキータープを使用し全体をカバーします。照明、コンセントカバー、カーテンレールなど、外せるものは外してから養生してください。



床にも漆喰が落ちます



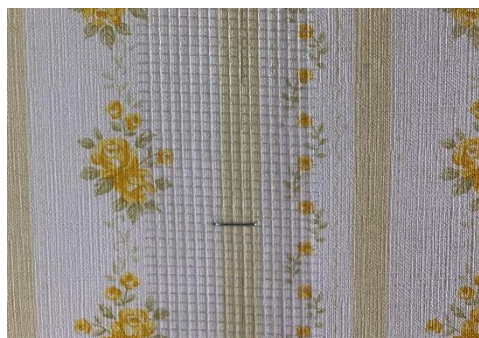
エアコンも養生でカバー

1-3

ビニールクロスの浮き・剥がれを防ぐ為に、壁紙のジョイント(継ぎ目)部分にジョイントテープを貼ります。タッカー(建築用のホッチキス、壁などに直接打ち付ける事ができる)でジョイント部分やビニールクロスの端部分を止めるとより耐久性がアップします。



のり付きのジョイントテープ



ジョイントテープとタッカーの処理

2. 下塗り (自然派下塗り材ナチュラルベース)

しっくい白亜専用の「自然派下塗り材ナチュラルベース」を塗ります。上塗りの漆喰の接着力を高め適度な硬化を促進し、漆喰の仕上がりを良くする役割があります。フタを開けてすぐ使えますが、感触が硬い時は少量(60cc程度)の水を入れて表面からほぐして柔らかくすると塗りやすくなります。



横のバンドを外します

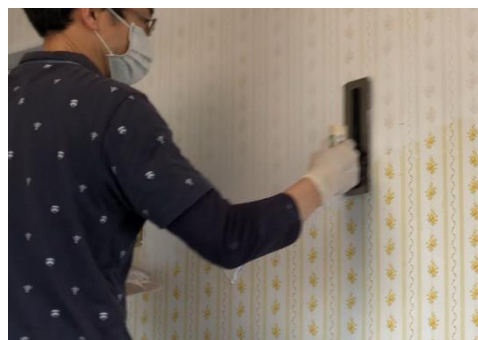


硬い時は少量の水を入れてほぐします

ナチュラルベースは、薄くこすりつけるように0.5mm以下で塗っていきます。下塗り材に入っている大理石粉(寒水石)のザラザラ感を感じるぐらいの薄さで塗り付けます。コテの片側を立て気味にして、厚みは0.5mm以下を厳守し、できるだけ薄く塗り伸ばしてください。厚塗りをすると漆喰を塗る時に漆喰自体の水が下塗りに吸われて塗りにくくなる場合があります。



100%自然素材で安心です



薄く伸ばすように塗っていきます

3. 自然派しっくい白亜の仕上げ塗り

自然派しっくい白亜の水練りは、容器に13~15ℓの水を入れ、8割ほど粉を投入し30分以上置いてから、カクハン機でダマが無くなるまで充分練り混ぜながら残り2割を入れ水練りしてください。水練り完了後は12時間以上置くと全体が馴染んで塗りやすくなります。詳しくは別紙の「水練り方法」をご参照ください。



ナチュラルベースを塗り、12時間以上乾かしてから自然派しっくい白亜の仕上げ塗りを行います。下塗りの表面にねりしっくいの水が吸われて塗りにくい場合は、下塗り面に霧吹きやローラーで水を少し含ませると塗りやすくなります。





慣れると楽しくなります



自分だけのしっくい壁をつくろう！

仕上げ塗り1回目は下塗り面にコテでこすり付けるように約1mmの厚みで薄く塗りつけてください。その際、下塗り面と仕上げ塗りの間に空気が入ることがあるので、空気を抜くようにコテ圧を強めて塗ってください。手の届く範囲で1回目が塗り終わったら、すぐに2回目を約1mm厚で塗り、全厚約2mmの仕上げになります。

仕上げのテクスチャー（ラフ、フラットなど）は2回目の約1mm塗りの時にコテ跡をつけるなどの仕上げ塗りを行ってください。

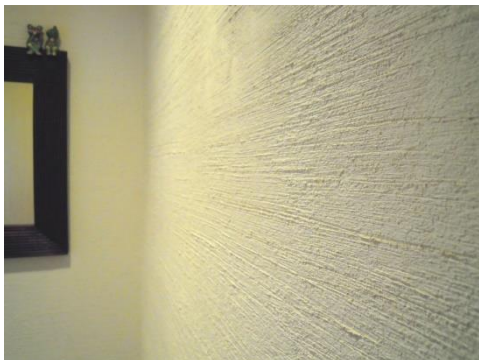
テクスチャー例



ラフ仕上げ



引きずり仕上げ



刷毛引き仕上げ



ご家族の手形も記念に

厚く塗る場合は全厚3mmまでを目安とし、それを超える厚塗りはひび割れやはがれの原因になることがありますのでご遠慮ください。

4. 最終仕上げから完成へ

しっくい白垂の仕上げ塗り後、乾いてしまう前（約1時間前後）にマスキングテープ、養生テープなどを剥がし、少し濡らした細めの刷毛を使いちり際と漆喰の境目をゆっくり沿わせて端部をきれいに整えます。



乾く前に剥がします



最後の仕上げは丁寧に

しっくい壁の完成！

しっくい施工後は湿気がこもらないように適切な換気が大切ですが、しっくい表面の急激な乾燥は、ひび割れ等が起きやすくなりますので、直射日光の当たる場所は日差しを遮り、風がよく通る場所は窓やドアを開けすぎないように調整し、漆喰壁の急激な乾燥を抑えてください。



D I Yの施工例

※しっくい施工後は、湿気がこもらないように数日はこまめに換気をして空気を入れ替えてください。

5. 道具の清掃・後片付け

使用したコテやコテ板、バケツなど、漆喰が付着した道具の清掃は、まず道具に付いた漆喰や下塗り材をヘラやゴム手袋を着用した手で除去してください。ご家庭の排水溝に漆喰をそのまま流すと詰まりの原因になることがありますので、できるだけ漆喰などは除去してから水洗いをして頂くようお願いいたします。

漆喰や下塗り材は固まると取れにくいので、道具類の清掃はなるべく早く行ってください。道具をきれいに使うには、コテやコテ板などに漆喰の付着が多くなったら、休憩前や作業途中でバケツに張った水を使い、ブラシなどでこまめに洗い落すことをおすすめします。



最後はしっくいを取って水洗いを



こまめな水洗いが大切です

施工や取扱い方法など、ご不明な点などはお気軽にお問合せください

お問合せ先 高知石灰工業株式会社 TEL : 088-865-0014 mail: info@kochi-sekkai.jp

ウェブサイトからもお問合せいただけます。